

経営比較分析表（令和3年度決算）

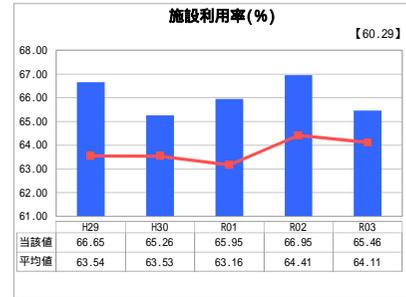
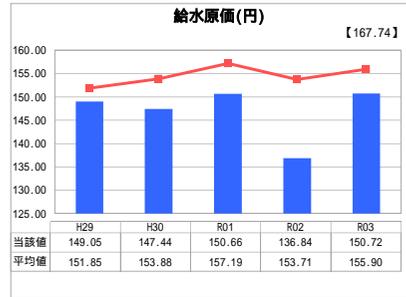
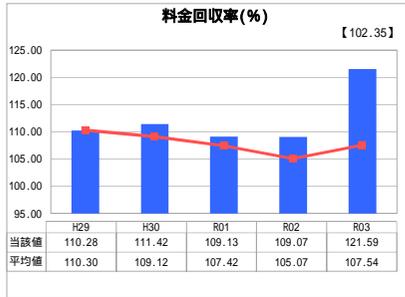
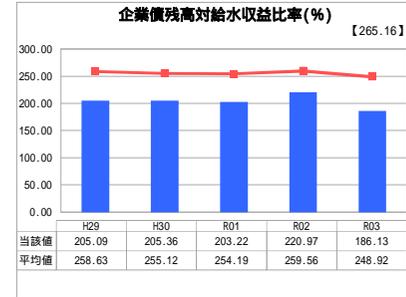
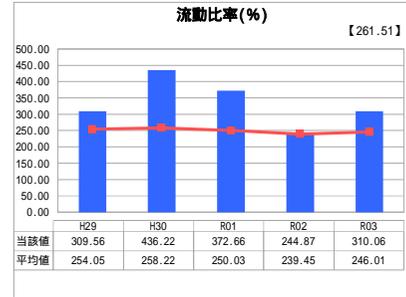
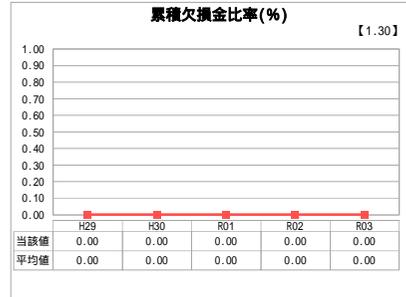
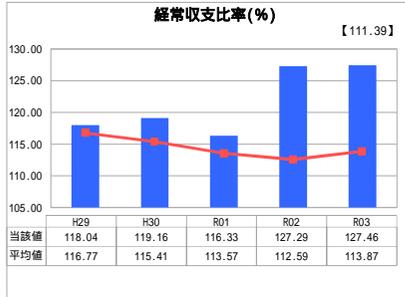
兵庫県 姫路市

業務名	業種名	事業名	類似団体区分	管理者の情報
法適用	水道事業	末端給水事業	A1	自治体職員
資金不足比率(%)	自己資本構成比率(%)	普及率(%)	1か月20m ³ 当たり家庭料金(円)	
-	74.65	99.65	2,836	

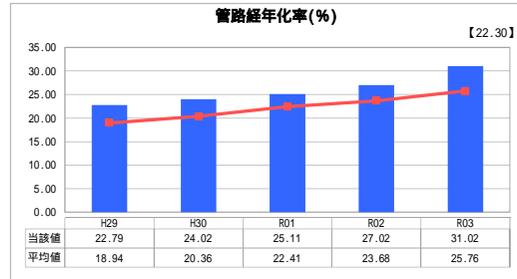
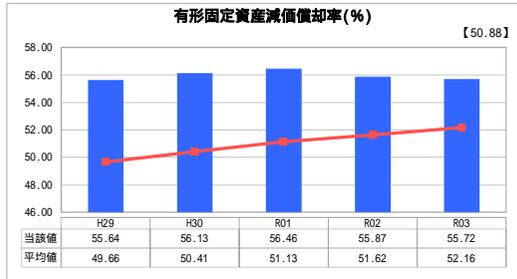
人口(人)	面積(km ²)	人口密度(人/km ²)
530,877	534.56	993.11
現在給水人口(人)	給水区域面積(km ²)	給水人口密度(人/km ²)
527,572	364.85	1,446.00

グラフ凡例
■ 当該団体値(当該値)
● 類似団体平均値(平均値)
【】 令和3年度全国平均

1. 経営の健全性・効率性



2. 老朽化の状況



分析欄

1. 経営の健全性・効率性について

【経営の健全性】
令和2年4月に水道料金増額改定を実施したことにより給水収益が増加したため、経常収支比率及び料金回収率は100%を大幅に上回り、類似団体平均値と比べてもさらに良好な数値となった。給水原価は類似団体に比べ抑制されているが、今後も人口減少等の影響により給水収益が減少傾向にあることや施設の老朽化による更新投資の増加により減価償却費の増が見込まれることから、引き続き、経営の健全化に取り組んでいく必要がある。

【経営の効率性】
施設利用率は平均値を上回っており、現時点において施設能力の過剰性は認められないが、人口減少社会を見据え、適切な施設規模となるよう、施設の統廃合やダウンサイジングを行う必要がある。有収率は、毎年継続的に実施している漏水調査の成果等により改善しているが、類似団体の平均値は下回っている。引き続き、漏水調査や管路更新のスピードアップ等有収率の向上に取り組み、経営の効率化を図っていく。

2. 老朽化の状況について

有形固定資産減価償却率、管路経年率とともに平均値を超えている。特に管路については、年々値が増大しており老朽化が進んでいる。このため、水道ビジョンに基づき取り組みを進めているが、管路更新率は、大口径の基幹管路の更新を優先的に実施していること等により0.09ポイント悪化した。より一層の水道施設の更新・耐震化や管路更新のスピードアップに取り組んでいく必要がある。

全体総括

人口や水需要の減少など水道事業を取り巻く環境は依然として厳しい状況にあり、本市においては施設や管路の老朽化対策と投資の財源確保が大きな課題となっている。今後も引き続き、水道ビジョンに基づき「投資の合理化」、「効率化・経営健全化」の取り組みを進めつつ、水道施設の耐震化・老朽化対策を着実に実施するとともに、投資の進捗状況や財政収支の状況を検証した上で定期的に料金の見直しを行い、水道事業経営の健全化に取り組んでいく。